

## 2023年度 佐賀西部ココニー 事業実績報告書

### 1. 法人運営に関するもの

昨年度申請した多良基福社園新築工事に伴う施設整備国庫補助金は、残念であるが不採択となった。また物価高騰により今後の施設整備の見直しが必要となるかもしれないが、来年度の採択を目指し、本年度も引き続き国庫補助金の中継を行っている。また進入路の建設は、対象地が第1種農地として太良町所有地（基福）であり、農地除外や農地転用など申請書において太良町を始め、大西土産改良区、太良町農福委員会などのご協力をいただき、無事建設に取り掛かることができた。2月の大雨で一時的にストップし、修復作業が必要となったが、2024年5月の理事会において開通式を予定している。

本年度5月8日に新型コロナウイルス感染症が5物に移行したが、各施設において感染予防対策を実施に取り組んだ。こうした中、役員幹部等は、ZOOMによるWeb会議と対面指導の両方を使い分けながら、透明性のある財務管理に努めた。

処遇改善特定給付金についても規程に基づき、本年度も対象職員に対して3月には特別一時金の支給を行っている。

### 2. 福祉事業活動

本年度は、4年ぶりとなる全日本カプト虫出焚大会を開催し、200人近くの子供たちが参加し盛會に終えることができた。また本年度は県内の社会福祉協議会が主催となり開催した「地域福祉実践研究セミナーin さが」において、佐賀西部ココニーの活動を発表する機会をいただき、法人の地域貢献活動を広く発信することができた。

遊樂会や動物感害の会については、施設合同開催はできなかったが、各施設の創意工夫で様々な活動を行い、利用者様に喜んでいただいている。

### 3. 就労事業活動

就労支援事業においては、アフターコロナの状況下で、努力しながら就労活動の活性化をすすめた。特に本年度は、法人事業として佐賀西部ココニー採種係をどんどんの森で開業することができ、また佐賀少年刑務所や太良町役場から支援をいただき、佐賀西部ココニーの自産販売や障害者理解への啓蒙活動を行った。

## 2023年度 昆虫の里 事業実績報告書

### 1. 総括事項

#### (1) 施設運営について

2023年度は新型コロナウイルスで5月8日より第5期への移行とともに社会経済が活発化へと進歩した年になった。

特に SAGA2024 国スポ・全環スポが開催が好機で、大会開催に向けた広告製造・競技用具などの製作を受注するなど明るい話題が増えてきた。また法人イベントの「全日本カブト虫相撲大会」を4年ぶりに開催し「佐賀西部コロナ一休館」、「佐賀まいこうフェス」「佐賀博正展」販売イベントの機会も増え利用者様の社会参加の機会が増えた。利用者様の満足に関しては高齢化や健康維持の課題と並行し、音向を重視しながら個別支援計画書に基づき、ひとりひとりにあった細かな支援を行った。

職員の資質向上に努めては、本年中延べの 16名 研修を主体に様々な研修を受講した。また OJT として「虐待防止・身体拘束」をテーマに意見討論を行い、障害福祉サービス事業所の職員としての知識向上とスキルアップに努めた。

#### (2) 施設利用者様の豊かな人格形成

新型コロナウイルスもインフルエンザなども重症症対策が続き、衛生対策の訓練を行いながら販売活動など、顧客と交流を行った。全日本カブト虫相撲大会や収穫祭においては進行係や販売係、会場整理係など役割を担ってほしい社会参加を行うことが出来た。久しぶりの交流が出来て、達成感と有意義な時間を過ごす事が出来た。

#### (3) 快適な賓の多い施設づくり

利用者様感々に合わせた支援を目指し、佐賀西部ホームと連携して支援にあたった。また施設内第4工区目を環境整備の月として施設内の環境美化に取り組んだ。

#### (4) 働き甲斐のある施設づくり

朝礼時は毎日ラジオ体操を実施し、音で「私たちの誓い」を復唱し、明るく元気に笑顔で一日のスタートができるように取り組んだ。

作業時には安全配慮と整理整頓を心がけ、けがのない安全で明るい作業場の環境づくりを努めた。

### 2. 福祉事業活動

利用者達は6月、11月にそれぞれ1人退所し2名補の35名が職員である。また1名の方が4月より長期入院になっており、利用実績数134名の状態である。障害福祉サービス事業収入は、79,202千円と前年より964千円の減少となった。施設整備については、朝礼の調理台及び西棟の女性トイレ洋式化へ設備更新を図った。就労事業で1国産部門の極貨物車庫の取得及び散策用車庫を更新した。リース終了に伴い遊歩車両を固定資産として取得した。

施設工事として朝妻池施設脇のコンクリート打設工事を、環境課との一環として本工区で行った。

### 3. 就労支援事業活動

今年度の木工部門は国スポ・全環スポの競技用具製作や認定工事も互換具製作など、物産品を主体に多種多様な商品づくりを行った。互換器具は海水みかんを中心に顧客用みかんが最盛期に入り販売額が伸びてきた。画ニシキ、湯がきクケノヨ等加工品も、売れ行き好調であり更なる販路拡大を目指す。印刷部門については国スポ・全環スポの印刷関連品など、様々な依頼が増えるなど販売が伸びた。

前年より取り入れた配曲人調整、道の駅太良のトイレ清掃業務と佐賀NORの自動車部品組立ては年を通して新たな収入源となった。就労支援事業収入は前年度より8,308千円増の40,057千円と増額決算となった。工賃については、昨年度比4,833円増の一人当たり月平均38,808円を支給し2023年度の目標工賃は達成した。

なお各部門別の実績については、下記のとおりである。

	2023年度 (千円)	2022年度 (千円)	差額 (千円)	前年度比 (%)
計工部門収入	15,325	9,999	5,326	151.6
国産部門収入	13,580	11,056	2,524	123.1
印刷部門収入	11,142	10,719	423	103.9
合 計	40,057	31,659	8,398	129.7
一人当たり月	(円/月)	(円/月)		
	38,808	32,007	6,801	121.9

※ 施設内就労は木工・印刷部門の利用者様で取り纏めております。

## 2023年度 佐賀西部ホーム 事業実績報告書

### 1. 福祉事項

#### (1) グループホーム運営について

2023年度は親友の下の下、「新たな生活モードへ移行」をテーマに取り組んだ。しかし感染者数が減少せず、安全な生活リズムの確立は困難で個々の能力に合わせた対応となる。そんな中にお出。過剰対応を想定して、利用者様自身で携帯消毒液を用い衛生対策の訓練の実施をした。

9月には約9年ぶりにインフルエンザによる感染が3名出たが、プーニング等の対策で伝染に感染を逃えることが出来た。

また今年度も生活の充実を図る目的で各棟に分かれてクッキング教室の実施、9月には梨狩りや食事会の実施をした。更に定期的にカラオケ会やウォーキングを行うなど、日々の楽しみを増やし満足度を高めることができた。防災訓練については本年も6月に防火避難訓練及び火防法に基づいて大館校区の指定避難場所まで移動訓練を実施した。

職員の資質向上については、社員の Web 研修を主体に様々な研修を受講した。事業所内研修については毎月1回合同で「虐待防止・身体拘束」の研修を行い、障害福祉サービス事業所の職員としての知識向上とスキルアップに努めた。

#### (2) グループホーム利用者の豊かな人格形成

今年度も大良町からの振替券を活用し、食事会や、お昼などが入った特製お弁当をお取寄せした。また定期的に買い物支援など余暇活動を計画する事で、地域社会と交流を図りながら皆さんが、新型コロナウイルスに向けた安心安全な生活が送れる支援に努めた。

#### (3) 快適な居の創り、グループホームづくり

長年の里との連携を図りながら、施設環境整備の向上を目指し、奇数月第4土曜日を環境整備の日としてホーム内外の清掃を行い、環境整備の行き届いたホームづくりを行った。また軒先や部分フロアでは定期的に支援員にて清掃及び衛生対策を行った。

#### (4) 喜び溢れるグループのホームづくり

安心して生活できる生活環境の向上を図り、活力ある居るのホームづくりに努めた。

月一回は互助会会議を通じて利用者の皆さんの意見を尊重し、自主的に取り込まれることは見守り、出来ないところを支援するように取り組んだ。

### 2. 福祉事業活動

本年度の利用者数は3月に1名が退所し1名減り27名の定員である。また1名の方が4月より長期入院になっており、利用実績数は26名の状態である。福祉事業活動収入は50、235千円と前年より、250千円の増収となった。なお利用者様の支援については、個別支援計画に基づき生活支援員・世話人が主体となり本人の意思を尊重して支援にあたった。

1. 総合事項

(1) 施設運営について

本年度は、新型コロナウイルスの状況になりながらも、ア  
 ーメインフルエンザと新型コロナウイルス  
 対策に努めていたが、年  
 終大をさせてしまった。こ  
 特別画（BCP）に基づき  
 ができた。また8月に14日  
 し、更に12月に14日大良町  
 だ。また大良町社会福祉協  
 大良高校生の施設での活

(2) 施設利用者の豊かな人格

作賞典では本年度 国スポ  
 ボールが開催される。これ  
 手権大会が開催され、1日  
 口発行。また多良岳福祉園  
 支事会も開催することか  
 こうした行事以外でも、お  
 あり、特に住居費が1割  
 出費し、2名の方が入居さ

(3) 快適な質の高い施設づく

り本年度は採択となったが、  
 行った。また採択に向け夏  
 年5月には開通予定である  
 利用者様の支援についてお  
 度も大良町議からの依頼も  
 行った。調理の部において  
 たメニューの提供、更に身  
 中無言も通訳初止の取り  
 タリートの編成、世に当り  
 ストでは、52作品の応募  
 採択に3名の方ができた

- 第3回多良岳福祉園展  
 泉鏡花賞 1作品  
 他賞賞 2作品

「見ぬふりせすこ めきしい心で 手をさしのべる」

(4) 働き甲斐のある施設づくり

農産部門では産廃設備の更新を行い、去年低迷していただけの品質と生産量の向上  
 の兆しが見られ、園芸部門では、カーペットを活用した栽培を取り入れたサツマイモの収穫  
 前駆除対策を行い、売上向上に取り組んだ。また飼育部門では、年間を通して計画的な  
 野草生草・野草茶販売、工芸部門では、日中活動で作製した御座ぐ、利用者様が描いた  
 イラストなどで、季節ごとに作品を施設内に飾り付けをするなど、例年同様の活動を進  
 め、本年度も各部門で掲げた事業計画達成のために、各部門の責任者が中心となり安  
 心・安全で明るく楽しい、働き甲斐のある施設づくりに取り組んだ。

2. 福祉事業活動

本年度は、在宅生活への移行で1名退所されたが、白石作業所からのサービス変更を  
 含む3名の方が新規に入所され、定員60人のうち 実人数58名の利用となっている。  
 事業収益については、昨年度の障害福祉等サービス事業収益234,342千円に対し  
 246,806千円と、12,464千円の増収となった。なお今年も処遇改善特定加算  
 を給付し、規模の整備を行い年度末に対象職員に特別一時金として支給をしている。

3. 日中事業活動

本年度は、農産部門ではしいたけ栽培の品質管理の徹底を行い、下期からの売上向上が  
 見込まれたが、園芸部門の基腐れ病の対策を行ったものの本年度実績には繋がらず、昨  
 年度同様、内部事業を行いながら就労支援事業収益は17,827千円となった。また物  
 価や電気料の高騰と非常に厳しい状況ではあったが、昨年度支給できなかった3月賞与  
 を支給することができ、利用者の上賞についても、一人当り月平均8,406円と、昨年  
 度比234円の増額することができた。

部門別の収入実績については、下記のとおりである。

	2023年度 (千円)	2022年度 (千円)	差額 (千円)	前年度比 (%)
農産部門収入	11,114	10,518	▲596	124.7
園芸部門収入	4,185	4,930	▲745	83.1
野草部門収入	1,181	1,312	▲131	90.2
工芸部門収入	255	261	▲66	21.3
合 計	18,885	17,827	▲1,058	106.3
一人当り上賞	8,406	8,172	▲234	102.9

4. 福祉支援活動

本年度は、福祉課の施設利用をきっかけに支えながら多良岳福祉園の利用者様1名を在宅へ  
 送り出すことができた。また遠くは秋田の状況変化により、白石作業所から多良岳福祉  
 園へと入居施設の利用の支援も行った。これからは本人と家族様の思いを受け止めた  
 がら、関係機関と連携の取組、ご本人のニーズと必要とされる支援の構築を行って  
 きたい。

## 2023年度 白石作業所 事業実績報告書

### 1. 総括事項

#### (1) 施設運営について

(イ) 今年度は、新型コロナウイルスが感染症法の第5種へ移行し、様々な経済活動が活発化したがウクライナ情勢等による原材料等の物価高騰が続き、事業活動に大きな影響が出た。しかしながら「道の駅しろいし」との業務委託契約による施設外売場や白石町のふるさと納税返礼品の受注により就労事業については、昨年度より増収となった。又、佐賀県の物価高騰対応支援金等を活用しながら、昨年度を上回る工賃の確保ができた。

安心・安全な施設づくりと職場環境づくりに努めると共に、就労継続支援B型事業所として施設資源を十分に活用しながら、利用者様のニーズに合った明るく元気よくをセッターに働き甲斐のある施設づくりに全職員一丸となって取り組んだ。その中で、今年も利用者様が自ら地域での販売活動等を通してご支援をいただいた皆様を支えられながら、地域とともに就労の喜びと生き甲斐をもって作業に従事し、円滑に施設運営を進めることができた。

(ロ) 利用者様の処遇に関しては、「明るく楽しく」をセッターに、就業中における事故等の防止に努め作業の安全が保たれるように、職員の意識向上の啓発に努めながら労働安全衛生管理の徹底に取り組んだ。又、利用者様と施設の安心・安全確保のための通報システムや災害時に即座に対応できるように職員研修等も行き、施設の保安管理を遂げた。

(ハ) 職員の資質向上については、個々人の研修と意識改革の喚起を促すために各種研修会の参加を計画し、Web研修会等の参加により職員の資質向上に努めた。又、法人で定めるキャリアパス要件に準拠した働き方改革と職員の処遇改善手当等の増額など大きな改善に努めた。

#### (2) 施設利用者様の豊かな人格形成

佐賀西部コミュニティー施設合同によるイベントは、全日本カブトの相撲大会、収穫祭は開催したがその他は各施設で独自に行い、利用者様処遇向上のために様々な活動を遂げた。白石作業所では夏休みの「武雄宇宙科学館」での販売や各種イベントへの参加、年末の「歳末セール清水みかん祭り」施設毎に行なった日帰りバス旅行や定期的な食事会と映画鑑賞会等の余暇利用により、社会との交流の喜びを体験できるような事業の実施に努めた。

#### (3) 働き甲斐のある施設づくり

法人運営理念の『互譲互助』精神と『健康と安全は、心の余裕と表裏事』を1年の目標として挨拶が響きあふ明るい職場作りに努め、創意工夫を重ねながら、より効率的な作業体制を作り安全で快適な働き甲斐のある施設づくりに努めた。

又、利用者様で作る互助会会議を毎月1日に開催して、日分達の意見で話し合いながら1ヶ月の目標を立て、皆さんが協力し合いながら明るく楽しい施設づくりに努めた。

### 2. 福祉事業活動

本年度の障害福祉サービス事業収入は、43,747千円となり利用者様の2名の退所や病気等による出勤日数の減少があったが、開所日数増で昨年度より391千円の増収となる決算となった。今年度は大きな施設整備等はなく、管理棟のトイレ排水改修工事や直営庭のエンジン動力とトラクター用の軌立板と駆圧ローラーの整備を行った。又、社員奥からの物価高騰対応支援金等により就労事業の業務省力化による作業効率の改善を図った。

利用者様の利用状況については、5月と11月に退所者があり、定員30名、現員31名で推移した。職員については、9月に1名の退職者と1月に1名の新規採用と定年による退職者が1名があったが基準上の職員配置内であり、適切な施設運営を行うことができた。

### 3. 就労事業活動

本年度の就労事業収入は34,189千円となり、新型コロナウイルスが法令上の第5種に移り経済活動が活発化した中で物価高騰等があったが、アイス、菓子収入が増収し前年度に対し1,073千円の増収となった。道の駅等の直売所の定上げが好調で、佐賀県からの物価高騰対応支援金等を活用して工賃の確保に努めた。工賃については、目標工賃の達成を利用者様・職員が一体となって取組み、2023年度は一人当たり月平均27,444円となり、前年度の25,097円に対して27,444円となり、今年度の目標工賃「1人当たり月平均23,700円」を達成することができた。

部門別の実績については、下記のとおりである。

部 門		年 度	2023年度 (円)	2022年度 (円)	増減 (円)	前年度比 (%)
業 務 収 入	アイス収入		5,782,745	3,590,550	▲183,195	110.5
	園芸収入		3,759,781	2,382,823	1,377,259	
	菓子収入		7,346,072	6,264,143	▲381,927	
	園芸収入		2,682,965	2,711,103	▲61,138	
	ふるさと納税収入		2,027,425	1,874,258	▲153,167	
	小計		21,598,991	19,544,581	2,054,410	
販売収入			12,590,234	13,570,687	▲980,453	92.6
合 計			34,189,225	33,115,268	1,073,957	103.2
1人当り工賃			27,444	25,097	2,347	109.4